



I.B.MUSEUM SaaS リニューアル情報 EXPRESS

発行元:早稲田システム開発株式会社 東京都新宿区高田馬場4-40-17 tel.03-6457-8585

✉ mapps@waseda.co.jp 🏠 www.waseda.co.jp/

Vol.9 2022.10.31 今回のテーマ | リニューアルQ&Aとここまでのまとめ

今回の内容

日頃は<I.B.MUSEUM SaaS>をご利用いただき、誠にありがとうございます。このリニューアル情報EXPRESSは、今回で第9号となります。これまで8回にわたり、I.B.MUSEUM SaaS の画面デザイン及びインターフェイスのリニューアル計画についてご説明を進めて参りました。すでに30ページ近い情報量をお届けした計算になりますが、ご不明な点などはございませんでしょうか。

ここまで、できるだけ細部までお伝えできるよう情報を小分けにして発行しておりますが、ユーザ館の皆さまからは、すでにいくつかお問い合わせをお寄せいただいております。内容は多種多様で、具体的な操作の内容に関するご質問のほか、リニューアルプロジェクトの基本方針や移行方法についてのご確認も少なくありません。

「リニューアルでユーザ側が準備しなければならないことは？」

「ある日ログインすると、以前の画面が使えなくなっている？」

各論に入った第3号の前2号にてプロジェクトの全体像をご説明しておりますが、画面が大きく刷新されるとなると、ご不安をお持ちになる方もおられるかと存じます。文面に書かれてはいても、上記のように念を入れて確認しておきたい事項もおありのことでしょう。また、現在議論中の要素まで含めてリリースにはるか先行する形でのご説明ということもあり、やや曖昧なご説明になった部分があることも否めません。まずは慎んでお詫びを申し上げます。

そこで今回は、前号でご案内いたしました通り当初の予定を大きく変更し、お寄せいただいたご質問への回答も交えつつ、1号を丸ごと使ってリニューアルのポイントの整理いたしたく存じます。まずはご一読いただき、ここに記載した以外にご不安な点、疑問に感じられる点をお持ちでしたら、担当スタッフまでお気軽にご一報いただけましたら幸いです。

I.B.MUSEUM SaaSリニューアル情報 EXPRESS 発行予定

Vol.1	2022/1/31	リニューアル計画概要とログイン画面
Vol.2	2022/2/28	デザインコンセプトとホーム画面
Vol.3	2022/3/31	検索トップと検索結果一覧
Vol.4	2022/4/30	詳細画面の特徴
Vol.5	2022/5/31	データ登録方法とクリップリスト
Vol.6	2022/7/15	人物・名簿とメディア
Vol.7	2022/8/31	資料利用
Vol.8	2022/9/30	公開設定
Vol.9	2022/10/31	リニューアルQ&Aとここまでのまとめ (公開設定までを振り返り)
Vol.10	2022/11/30	項目設定
Vol.11	2022/12/31	ユーザ管理・一括処理
Vol.12	2023/1/31	帳票設定
Vol.13	2023/2/28	移行方法と並行運用について
Vol.14	2023/3/31	総集編 (Vol.1からVol.13までを1冊に)

Now!

Vol.9では、予定を変更し、リニューアルQ&AとVol.8までのまとめとします。



新デザインのポイント

デザインやインターフェイスのリニューアルと聞くと、まず「見た目が古くなったので新しくする」というイメージが浮かびます。今回の I.B.MUSEUM SaaS のリニューアルでもそうした面がないわけではありませんが、それは見た目をモダンに整えること以上に、近年のデジタル活用環境変化を踏まえて「使いやすさを再構築する」ことを意図しています。

リニューアル後の新しい画面では、日常にご利用いただいているデータベースシステムとしての核心部分に大きな変更はありません。原則として機能やメニューはそのままに、

- 普段使いで多くの方が不便と感ぜられるであろう部分
- 本来統合的に活用できるはずの機能が分断されている部分
- 操作方法を直感的に推測しにくい部分
- マニュアルを読んでも理解できないケースが発生しやすい部分
- 機能追加でインターフェイスとしての一貫性が薄まった部分

などを改善することで、実際にご利用になる皆様のご負担を軽くすることに主眼を置いています。

運転席がスイッチだけではグループ分けや色分けが欲しくなりますし、増改築を繰り返した住まいなら今の暮らしに合わせて間取りのリフォームも必要となるものです。同様に、複雑になった画面は見直しを実施し、できるだけシンプルに考えて、できるだけスマートに作業できるよう模様替えを行うタイミングがやってきます。

この10年間でスマートフォンやタブレットは劇的に普及しましたが、その分、「分かりやすいUI」の基準も大きく変化しました。私たちが日常生活で慣れ親しんでいるWEBやアプリも、どんどん操作が簡略化されています。高度な機能を備える業務システムは独特の世界ではありますが、それでも現代のデジタル文化と同じ感覚で理解できるものであれば、新しく配属された方にも、たまにしか使わない方にも優しいデータベースとなり得ます。

古くなったから改装するのではなく、いまでも使いやすい各機能を時代性に合わせたインターフェイスで再生する。これが、今回のリニューアルプロジェクトの主旨となります。

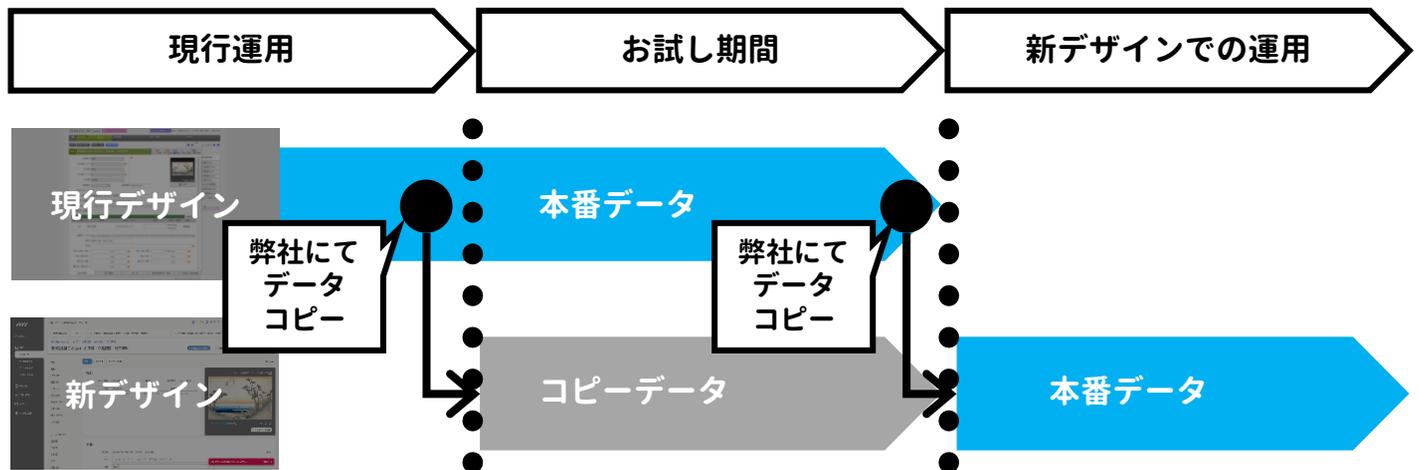
その中でひとつの大きなテーマとなるのが、「本来はひとつの流れとしてシームレスに使えるべき機能」を、あるべき場所に再配置することです。たとえば、「野菜は焼くもの」だった時代に、「茹でる」「煮る」「蒸す」といった調理法が次々に現れたとしましょう。そのたびに別々の専用コーナーの増設を続けると、最終的にとても使いにくいキッチンが出来上がります。追加された当時はとても便利な部屋だったはずですが、時代が進んでいくと、当初は考えつかなかった「ひとつの部屋でいろいろな料理を作りたい」という発想が生まれるわけです。

今回のリニューアルは、もはや正確に数えるのが難しいほどの機能追加を行ってきた I.B.MUSEUM SaaS の建物や家具は変更することなく、間取りやインテリアを暮らしやすくアレンジするリフォームのようなもの。これまで別々の部屋に移動していた「焼く」「茹でる」「煮る」「蒸す」という一連の作業を、広々としたモダンなキッチン内で完結できる快適さ。新しい画面をご覧になれば、きっとご実感いただけるものと自負しております。

移行作業の計画

これまでいただいたリニューアル関連のお問い合わせの中には、「新しいインターフェイスが完成したら、ある日を境に切り替わるのですか」というご質問がいくつかありました。結論から申し上げますと、「いきなり変わることはありません」という回答となります。

どんなに使いやすい画面でも、初めて操作する時は、どうしても「あのボタンはどこに行った?」「この情報はどこから閲覧できる?」といった混乱が生じるものです。探し回る時間をロスしてしまっは本末転倒となりますので、今回のリニューアルでは、次の図のような2段階の移行を実施します。大きな戸惑いを感じることなく新しいインターフェイスに馴染み、使いやすくなる部分、労力を軽減できる部分、作業効率上がる部分を「お試し期間」を挟んでから本格的に移行する…という段取りとなります。



●お試し期間の「2つのシステム」とは

移行の第一段階となる「お試し期間」では、現行画面と新しい画面のシステム両方に対して自由にアクセスすることができます。また、この期間のスタート時には、弊社スタッフによる新しい画面の操作に関する説明会を開催させていただきます。

お試し期間中に操作できる新デザインのシステムは、すべて実際のものと同様に動作します。慣れない画面でデータを編集すると操作ミスが心配ですが、新システム内のデータや各種設定は【ご利用中のデータのコピー版】を提供する予定ですので、「お試し期間の直前まで館内で更新していたデータ」で新しい画面の操作を試していただくことができます。

整理しますと、上記のお試し期間中は、現行デザインに登録されたものが【運用中の元データ】で、お試用の新デザイン内のものは【練習用の複製データ】となります。従いまして、この期間はお試用の新デザインでコピーデータを編集しても、実際に運用中の元データへの影響はありません。逆に、お試し期間に突入後、現行画面のシステム上で更新した実データについては、新しい画面のシステムには反映されません。つまり、新デザインでは、【お試し期間の開始と同時に更新が停止した状態のデータをもとに編集・追加することができる】わけです。

この期間に新しい画面に十分に慣れていただきましたら、正式に新デザインのシステムに移行となります。この時、お試し期間中に現行画面上で更新を続けたデータは、すべて新しい画面の中に反映された状態で利用開始へと移行いただけますので、どうぞ安心ください。

●本格的な移行に向けての進行イメージ

お試し期間は、現在のところ3か月前後を予定しています。その間、前述の通り説明会の開催をはじめ弊社スタッフがサポートいたしますが、人員数に限りがあります。それでも可能な限り緊密に対応できる体制を敷くために、全ユーザを対象にグループ分けを実施させていただきます。

現在の予定では、2023年春ごろから最初のグループがお試し期間に入り、すべてのグループが新デザインへの移行を完了するのは翌年・2024年の春ごろとなる見込みです。なお、上記の通りお試し期間は3か月ほど見込んでおり、期間を終えたグループが正式に移行するタイミングで次のグループがお試しに入る…という形で時期をずらし、段階的に全館の移行が完了するスケジュールを想定しています。なお、予定より早く新デザインに慣れていただいた場合など、ご希望によっては期間を短縮して移行いただけるよう考慮するなど、可能な限り柔軟に対応いたします。

●移行にまつわるご質問について

さて、この移行作業に関しましては、冒頭の通りいくつかのご質問をいただいています。その中で、基本的な事項のご確認の意味を持つものについて、下記の通り回答をまとめました。上記説明と一部重複しますが、ぜひお読みください。

Q1

ある日ログインしたら新しい画面になっているということでしょうか？

A1

いいえ。事前に移行スケジュールをお知らせした上で、「お試し期間」として新旧画面の並行運用期間を設けます。新しい画面に慣れていただく期間を3か月ほど確保いたしますので、突如として切り替わって戻れなくなる…ということはありません。

Q2

新デザインへのリニューアルはいつ実施されますか？

A2

現在の予定では、2023年の春ごろから2024年前半にかけて順次「お試し」の並行運用期間に入り、原則としてその3か月後を目安に新しいインターフェイスへのご移行いただく予定です。この際、可能な限り緊密なサポートを提供するために、3か月単位でいくつかのグループに分けて、時期をずらしながら実施していきます。ご自身の館がいつその期間を迎えるかにつきましては個別にアナウンスいたしますが、ご事情によっては、お試し期間の開始時期や新画面への移行タイミングの変更も可能な限り考慮いたします。

Q3

最近利用を始めたのですが、画面が変わる予定なら、画面が変わってから機能を覚えた方が良いですか？

A3

現行画面で提供されている機能は、新しい画面になってもすべてご利用いただけますので、どちらの画面で機能を覚えていただいても問題はありません。ただし、I.B.MUSEUM SaaSのご利用開始自体がお試し期間が始まる直前のタイミングとなる場合は、現行画面で運用する作業は意味がありませんので、新しい画面からスタートしていただいた方が効率的かもしれません。現在すでにご契約であれば現行画面でお使いいただいた方が慣れは早いはずですが、もし気になるようであれば弊社スタッフまでご相談ください。

Q4

新たに操作説明会は開きますか？ 動画などをアップする予定は？

A4

操作説明会は個別に開催する予定です。また、操作説明の動画につきましても、追って公開していく考えです。

Q5

リニューアル画面を使用するのは必須ですか？ 今の画面をそのまま使い続けることはできませんか？

A5

現在の画面に慣れていただいた方には大変申し訳ございませんが、疑似的な並行運用期間となるお試し期間が終了次第、新しい画面での運用となります。2つのインターフェイスが同時に存在すると事故のもととなりかねませんので、どうぞご理解いただきますようお願い申し上げます。



変わること、変わらないこと

繰り返しになりますが、今回のリニューアルは、原則として「画面の変更」とお考えください。ご登録済みのデータの中身や、これまで行っていた各種設定についてはすべてそのまま引き継がれますので、どうぞご安心ください。その半面、ボタンの位置をはじめとする画面内の配置などは現行画面から変更されますので、まずは操作に慣れていただく必要があります。「お試し」の3か月は、そのための期間となります。

その上で、以下、画面デザインの変更にまつわるご質問に回答いたします。

Q1

新しい画面のシステムにデータを移行しなければならないのでしょうか。

A1

インターフェイスが刷新されるだけでシステム自体は同一ですので、当然、ご登録いただいたデータはすべて引き継がれます。データの移行作業は不要ですので、ご安心ください。

Q2

公開ページのテンプレートなどに変更はありますか？

A2

今回のリニューアルは、管理画面のみがデザイン刷新の対象となります。公開ページのテンプレートに変更はございません。

Q3

項目や帳票など、現行デザインの中で設定したものについて、やり直しが必要でしょうか。

A3

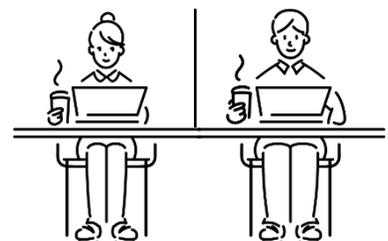
現行の設定はすべて新デザインでも引き継がれますので、そのままお使いになるのであれば、作り直しなどの作業は不要です。ただし、帳票編集については操作性の大幅な向上を実現するため、新たな機能として搭載することを検討しています。これにより、現行画面で作成したレイアウトは「出力のみ可能」「レイアウト修正は不可」となる可能性があります。新機能上での再編集が必要な場合は弊社にてサポートさせていただきますので、まずは担当スタッフまでご連絡ください。

Q4

新デザインに移行したら、新しくできることが増えますか？

A4

今回のリニューアルは画面デザイン上のことですので、新たな機能が増えるわけではありません（機能追加は別途継続して実施していきます）。ただし、「デバイスを選ばず使えるようになった」「より直感的に操作できるようになった」「データを編集する時の労力が減った」など、画面の変更に由来する時短効果などについてはご期待いただけるものと存じます。



レイアウトのこと、タブの廃止のこと。

さて、ここまでは「今回のリニューアルで変わるもの」「新しい画面に移行する段取り」などについてご説明してきましたが、それとは別にひとつ特記しておくべきことがあります。それは、現行画面内でデータを閲覧・編集する際に多用する「タブの扱い」です。

現在のI.B.MUSEUM SaaS は、タブによる情報の区分が管理作業上の要となっています。これは、現在のインターフェイスを設計する際、「よく使う情報は先頭のタブに」「使用頻度の低い情報は後ろのタブに」と配置することで、画面を開いた瞬間に目に飛び込んでくる情報量を絞り、作業者の皆様の心理的なご負担を下げることが意図したものです。また、たとえばデータを公開するための作業を集中して行うような場合は、公開にまつわるデータ項目をひとつの画面＝タブに集約した方が効率が良いという判断もありました。

今回のリニューアルでは、こうしたタブによる画面管理を廃止することになりました。その理由は、次の通りです。

●なぜタブを廃止するのか

現在の資料詳細画面の構成は、上部にナビゲーションボタン、下部に情報をエリア分けするタブがありますが、これはI.B.MUSEUM SaaSがリリースされたときに一般的だったPC環境に合わせて設計されたものです。

当時は、画面の縦横比については各社製品とも大きな変化はなく、大きな違いがあると思われていたのはディスプレイのサイズでした。と言っても、下は6インチ前後のスマートフォンから上は50インチに迫る大画面モニターまで、極端に異なる環境が当たり前の現代の目で見れば、その差はあっていないようなもの。また、スマホやタブレットでは画面の一部を指で拡大する操作も頻繁に発生するなど、当時は想像できなかった閲覧方法が登場しています。

こうした環境の中で、現在の「下のタブ」を維持したままスマホでも閲覧できる環境を作ろうとすると、タブの中の表示エリアが文字を視認できないほど狭くなるか、そうでなければはるか下方へとスクロールにスクロールを重ねて初めてタブが表示されるか、ふたつにひとつ。いずれの方法を選んでも、使い勝手としては恐らく最悪に近いものとなるでしょう。ましてや、タブを4つ、5つと並べるとなると、その分の横幅をスマホに求めることは困難ですので、縦スクロールと横スクロールが混在することに…。

タブと言えば、最近、「もう少し多く分けられないか」という声を時々うかがうようになりました。現在のデザインでは5つまで使うことができますが、数に制限を設けているのは、画面の横幅から逆算して設計したから。「これ以上増やすと、タブの文字が読めなくなる」という判断により、現在の仕様となりました。これも、横幅などいくらでも取れる大画面モニターも使える現代だから生じた行き違いということになるわけです。

そんなわけで、現在の仕様では、たとえ異なる性質の情報であっても、タブが足りなくなればひとつのタブ内に収めざるを得ません。また、今後さらにミュージアムのデジタル活用が進んで情報が多様を極めるようになると、上記のご要望の通り5つのタブという「部屋」では足りなくなる可能性も否定できません。しかし、情報が増えてもタブの増築はできませんので、やむを得ず無理やり押し込むことになります。

一方で、タブによる管理から解放される形となる新しい画面デザインなら、増やす部屋を「縦に積む」ことができます。5DKの戸建住宅とワンルームマンションの世帯数の違いのように、デジタル活用が進んだ時にも対応しやすいということになるのです。

そのほか、マウスの移動距離の短縮化などとともに、新しいデザインでは画面操作上のさまざまな課題を一気に解決しています。現行画面に慣れてくださったユーザの皆様には誠に恐縮ですが、お試し期間が始まった際には、ぜひ新しいデザインの使いやすさをご確認ください。

では、ここでタブにまつわるご質問にお答えいたします。



Q1

タブを使わないのであれば、現在の項目のレイアウトはどのように反映されるのでしょうか？

A1

現行画面でレイアウトされている項目の表示順序は、原則として新しいデザインでもそのまま再現されます。表示領域が大きくなるほか、「タブが【アンカー】に変わる」「タブの中のデータ表示領域は【セクション】になる」といった形で引き継がることになります。このあたりは、リニューアル情報Expressの第4号で詳しく解説しておりますので、ぜひご参照ください。

Q2

現行の画面ではタブを非表示にできましたが、新しい画面ではどうなりますか？

A2

エリアを丸ごと非表示にする代わりに、画面の切り替え機能の導入を計画しています。よく使う項目だけを表示する別モードですが、「どの項目を【よく使う】と定義するのか」「それをどう設定するのか」といった細部の仕様検討に慎重を期す必要があるため、現在進行中のリニューアル計画が終了した後に追加実装でのご提供となる見込みです。また、項目設定・レイアウト設定においては、「非表示項目」の設定を可能にする予定です。

必要なこと

今回のリニューアルで新しい画面へと移行するにあたり、ユーザーサイドでご用意いただくものはございません。いえ、ひとつだけありました。弊社スタッフが操作説明でお邪魔する際、お時間だけご用意いただければ…。

Q1

リニューアルにあたりユーザー側で何か必要なことはありますか？

A1

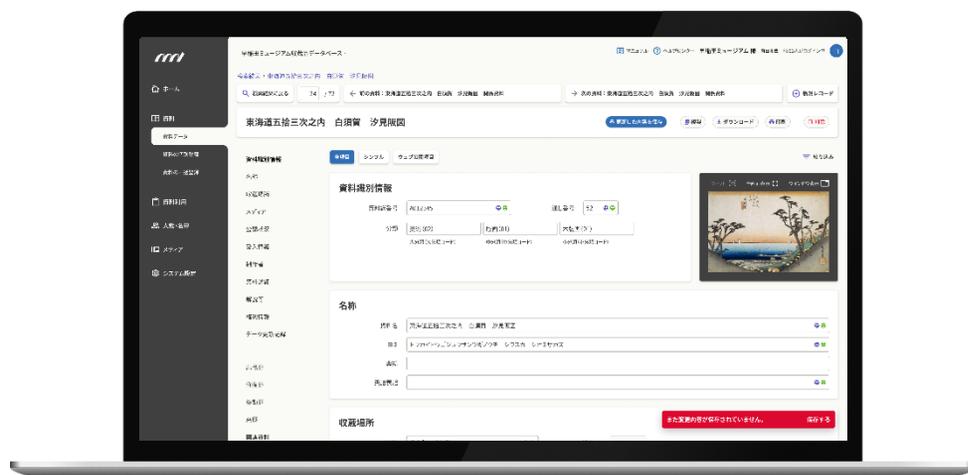
これまでご利用いただいていたアクセス環境があれば、新規でご用意いただくものは何もございません。

Q2

利用料が変更になったりしますか？

A2

変更はございません。これまでのご利用料金で新デザインの全機能をお使いいただけます。



今回のまとめと次号のお知らせ

ここまでお読みいただき、誠にありがとうございました。

今回は予定を変更し、主に今回のリニューアルの根幹部分について、再度ご説明させていただきました。このリニューアル情報 Expressの第1号・第2号を中心に重複する部分もございますので、お時間がございましたら、ぜひバックナンバーを再度お目通しいただければと存じます。

すでに繰り返しております通り、今回のリニューアルはインターフェイス、画面デザイン上の変更には過ぎません。システムとしての根幹に変更はないことから自動車と言えば単なるマイナーチェンジで、決して新型車を発売するわけではないのですが、外観が激変することから大きなインパクトをお感じの方も多いかと存じます。

また、今回を含めたここまでの9号では、少しまどろこしい表現を多用しており、ご不便をおかけいたします。上記の理由からあくまで「新デザイン」「新しい画面」であり、「新システム」とは言えないため、書く側ももどかしく感じております。それが理由で分かりにくくなっていったとしたら、大変申し訳なく存じます。

新旧2つの画面を並べると別のシステムのように見えますが、「新しい画面」側も機能的な変化はありません。リリースと同時に大きな反響をいただいたI.B.MUSEUM SaaS の快適性を現代の動作環境で再生・再構築することが目的ですので、最初は少し戸惑っても慣れていただければ、新デザインはきっとこれまでの画面以上に使いやすく感じいただけるものと自負しております。

というわけで、今回のまとめ記事がお役に立ちましたら幸いです。また、もしもご不明点などがございましたら、ご遠慮なく弊社担当スタッフまでお申し付けください。では、次号は「項目設定」についての新情報をお届けいたしますので、どうぞお楽しみに。



- ※ 掲載スケジュールは、すべて発行時点での予定です。開発の状況により変更となることがございます。
- ※ 掲載のリニューアル画面は開発中のものです。